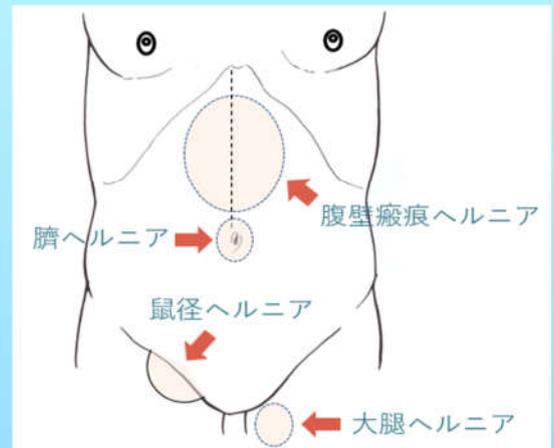


ヘルニア（脱腸）専門外来 開始のお知らせ

鼠径ヘルニアをはじめ、腹壁癒痕ヘルニア、大腿ヘルニアや
臍ヘルニアなどの疾患を、より専門的に診察するため、
令和2年10月より**水曜日午後（13:00～14:30）に**
「ヘルニア（脱腸）外来」を開始いたします。

「ヘルニア」と聞くと腰のヘルニアを思い浮かべると思いますが、鼠径ヘルニアというのは、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や小腸などの臓器が、筋肉の間から皮膚の下に出て瘤のようにふくれる病気です。昔から、俗に「脱腸」と言われてきました。

その腹壁のヘルニアの中では「鼠径ヘルニア」が最も多く、立ち上がった時、お腹に力を入れると、鼠径部といわれる太ももの付け根の部分がはれてきます。初期のころは、横になったり、押さえると凹みます。しかし、大きくなると痛みを伴ったり、押さえても戻りにくくなります。さらにひどくなると、腸がはまり込んで戻らなくなり、「**嵌頓**」という状態になります。腸が壊死してしまうので緊急手術が必要になります。

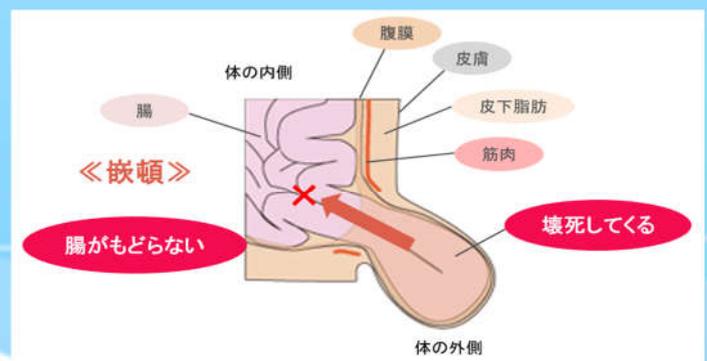


治療法は？

成人の鼠径ヘルニアは自然と治ることはなく、手術のみが唯一治せる治療です。麻酔は、腰椎麻酔から全身麻酔まで患者様の状態に応じて行います。手術では、弱くなった筋肉の部分にメッシュといわれる人工膜を使って補強します。

手術方法には、**腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TAPP法とTEP法)**や従来から行われている**鼠径部切開法**があります。

当院では、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を導入後、年々実施件数も増加し、現在では約9割以上の患者さんに行っています。小さい創のため手術後の痛みは少なく、傷も目立たないため、手術を受けられた患者さんの満足度は非常に高くなっています。

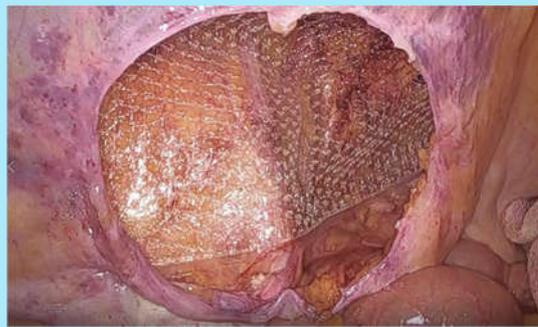
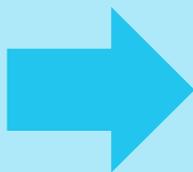


(裏面もご覧ください)

また、鼠径ヘルニアだけでなく、以前に行った手術の傷が弱くなって腹膜や腸が脱出する「腹壁癒痕ヘルニア」に対しても、腹腔鏡下手術を積極的に行っています。ヘルニアの手術は短時間（45～70分）で、短期入院（2～3日）が標準ですが、日帰り手術もヘルニアの状態やご希望に応じて行っております。腹腔鏡下ヘルニア根治術では、ヘルニア門を確認し、ヘルニア門をメッシュを使用して面でふさぎます（下図）



当院で使用するメッシュ



手術後は？

手術後は、翌日から食事や歩行が可能です。シャワーやお風呂に入ることもできます。また、退院直後から事務や軽作業の仕事は可能です。ただし、重い物を持つことやスポーツなどでお腹に強い力を入れるのは、手術後1ヵ月ぐらいは避けて下さい。

鼠径ヘルニアの手術は、腹腔鏡下手術の登場によって、患者さんの負担の少ない手術が実現可能になりました。また手術後の痛みが少ない点や、短時間で終わること、退院後早期に社会復帰が可能なことなど利点の多い手術です。

「太ももの付け根がふくらむ」や「以前の傷がふくらむ」など、お困りのことがございましたら、当院の外科・ヘルニア専門外来へお気軽にご相談してください。

担当医師

一般・消化器外科：鈴木 悠介、井上 善博

大阪医科大学三島南病院